

講義名	地域まちづくり概論			
担当教員	植松 宏之 / 岸野 啓一			
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要

【主題】日常生活や経済活動の基盤となる地域まちづくりの概念や全体構成に関する理解
【概要】人々が日常生活や経済活動を円滑に、安全に、安心して行い、豊かで持続可能な経済社会を築くために、様々な視点から社会経済的諸活動を支える「地域まちづくり」が行われている。この授業では、この地域まちづくりの概念・計画策定から事業実施、マネジメントに至るまでの全体の流れを解説するとともに、地域まちづくりにおける基本的な概念（計画や政策の理論と手法の基本的考え方）を個々のテーマ（高齢社会・地域再生・観光政策・環境・防災・公共経営・エリアマネジメントなど）の事例を交えながらわかりやすく解説する。

到達目標

1. 経済学部学生が2年次生以降で履修する地域まちづくりに関する専門科目について、そのベースにある計画・政策・マネジメントの理論と手法の考え方を理解し、これらの専門科目に対して興味を持ち積極的に履修する意欲を高めることができるようになる。
2. 地域まちづくりは日常生活に密接に関連するものであり、日常生活の様々な場面と重ね合わせて具体的なイメージを抱き、経済学部の学生として地域まちづくりが地域社会の構築に意義深く重要な役割を担うことについて基本的な理解を深めることができるようになる。
3. 卒業後に市町村職員などの行政職や民間企業のまちづくり会社・団体への進路に関心がある学生諸君については、実際の職務と密接に関わる内容が多いので、より関心と意欲が高まり自らのキャリア開発の契機とすることができるようになる。

提出課題

授業内容に関するレポート課題を課す。実施方法（レポート提出、授業時間内における演習など）はその都度指示する。
なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況等により、対面・オンライン並行開講になった場合は、方法を見直すことがある。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

次の授業の際に全体的な講評や解説を行う。

評価の基準

試験（前半部はレポート課題、後半部は定期試験）を70点、平常点（出席点や自らのレポート、演習など）を30点として評価する。
2人の教員が担当分をそれぞれ100点満点で評価し、その平均をもって全体の成績とする。

履修にあたっての注意・助言他

積み上げ型の授業ではないが、経済学部の学生が地域まちづくりの全体像を把握するための基礎的な考え方やその事例を解説するので、課題演習に取り組みながらその内容をきちんと理解してもらいたい。そのため、授業への出席と積極的な参加を強く奨励する。
なお、対面授業を原則とするが、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、対面・オンライン並行開講となる場合もある。

教科書				
.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

授業の際にプリントを配布する。参考文献があれば、授業時間に紹介する。
対面・オンライン並行開講となった場合は、RYUKA Portalを通じて資料を配布する。

授業計画

【前半部】 担当：岸野啓一
1. ガイダンス（授業の目的・開講の意図、全体構成、授業の進め方、評価方法など）
・地域まちづくりとは（事例紹介などによる地域まちづくりの概念説明）
2. 地域の姿を表す統計データ
3. 地域の将来像を示す総合計画
4. 人々の活動を支える地域交通政策
5. 地球にやさしい・地域にやさしい環境計画
6. 衰退した地域の復活を図る地域再生
7. 地域まちづくりにおける政府や自治体の役割
8. 前半部のまとめ（レポート課題等）
【後半部】 担当：植松宏之
9. 公共経営と地域マネジメント
10. 都市で展開する地域マネジメント組織の事例紹介
11. 公共政策とまちづくり
12. 都市計画とまちづくり
13. 土地利用計画とマスタープラン
14. 防災まちづくり
15. 防災まちづくり
定期試験（後半部に関する試験）

対面・オンライン並行開講する場合は、シラバスに変更が生じる可能性がある。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A～L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業の内容はできるだけ履修中に理解することが望ましいが、授業の内容を確認し理解を深めることを目的としたレポート課題を課す。
このため、授業内容の確認とレポート作成に週2時間程度を充てる必要がある。
また、地域まちづくりは実生活に関連するものであり、日常生活における様々な体験を授業で得た知識や知見と照らすことにより、授業の内容をより具体的に理解することや理解を深めることを期待する。これを実践するために、日々の生活において「地域まちづくり」を意識し、週2時間程度、日常生活で得た様々な体験を地域まちづくりに関連づけて考えることを求める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、経済学部の学部専門基礎科目であり、主に地域まちづくりに関連する科目の概論について論じるものである。
このため、本学のディプロマ・ポリシーに記載された「経済学部・経済学科の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力」のうち、次の項目に強く関連する。
人間・社会、自然に関するこれまでの学問的成達の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができる。
経済学を基盤にして、複雑化する地域社会で生起する問題を読み解き、解決策を提案することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レスポを用いて質疑応答やアンケートなどを行う。

実務経験の有無及び活用

植松、岸野ともに実務経験あり。
これまで取り組んでいた地域まちづくりの実践例などを授業の中で紹介する。

備考